

臨床で活かす看護・介護研究

～ケアの質の向上をめざして～

名桜大学 人間健康学部 看護学科
清水かおり

第1回目の内容

- 看護研究取り組みの意義
 - 看護研究のすすめ方
 - テーマの選定
 - 研究計画書の作成
- 研究方法・デザイン
- 文献検索

看護研究の位置づけ

- 看護研究とは、看護ケアを受ける患者、および看護ケアを提供する保健医療システムにとっての重要課題に関する知識を体系的に探求・検証することである。
 - ケアの質の継続的改善のため
 - 関連科学の知識全体の継続的発展のため
 - 保健医療システム、保健医療機関、健康成果に貢献するため
 - 看護基準を確定・検証・改良するため

実践者が行う研究

- 実践者が行う研究というのは本来、**実践の場**で行き詰まったり、疑問に思ったことに対して**研究的なアプローチ**をして、**何らかの解決の糸口**を見いだす**目的**で始められるもの
深井喜代子氏（岡山大学大学院教授・基礎看護学）
- 「看護研究」の大きな目的は
「よりよい看護実践の実現」
西條剛央氏（早稲田大学大学院商学研究科 専門職学位課程 講師（MBA））
週刊医学界新聞 第2856号 2009年11月23日【対談】研究以前の
リテラシーより

臨床看護研究あるいは看護実践の場における研究の目的 (Donna Diars)

- 「看護のケアの実践を導き、新しい知識をつくり出して、患者のケアを進歩させること」
- 「臨床判断 (Clinical judgement)、すなわち、ある看護行為を、どのようにして、いつ、どこで、どのような方法を使って、なぜ、そしてどのような目的に向かって行うかを決定するために看護師が行う熟練を要するしかも科学的な過程を進歩させることである」

出典：早川和生 (2012) 『看護研究の進め方 論文の書き方』 (第2版)、医学書院

看護研究をはじめる前に



院内研究とは

(東サトエ)

- 根拠に基づいた看護ケアを開発し、看護の質の均一化と向上をはかり、ケア効果を評価することによって豊かな看護実践を保証していくもの
- 院内や学会で、得られた研究成果を発表し共有することは、施設内全体の看護実践能力の向上を可能にするだけでなく、看護学の発展に寄与するものとなる。

出典：早川和生 (2012) 『看護研究の進め方 論文の書き方』 (第2版)、医学書院

看護における科学的研究の始まり

- 看護における科学的研究は、フローレンス・ナイチンゲールから始まった。
 - 現代看護の創始者
 - 優秀な看護管理者であり、世界レベルのリーダー
 - 情熱に燃えた統計学者
 - ヘルスケアの質を改善するために、罹患率と死亡率のデータを収集



“クリミアの天使”であり、
同時に“**統計学の女王**”でもあったナイチンゲール

ナイチンゲールの功績 例

- クリミア戦争中、ナイチンゲールとその部下の看護職者がスクタリに到着して6ヶ月後、イギリス兵士の死亡率が42.7%から2.2%まで低下



- 下水道設備と疾病との関連を認識していた。
 - 大きなかごで下水道の汚物を何千倍分も除去
 - 詰まった下水と便所を洗い流した。
 - 病院内や付近で発見された動物の死骸を埋めた。
- 罹患率と死亡率についてデータ収集し、ケアの質のレベルが低いことを政府役人や一般市民に提示

9

現場の素朴な疑問から、研究が始まる！

- スクタリのイギリス兵士の死亡率が高い。

⇒どうして高いの～？

- 死亡率が高くなる要因を明らかにしてみよう！

⇒下水道設備と疾病に関連がありそう。

⇒下水道に汚物！ 詰まってる！

⇒病院内や付近に動物の死骸がある！

- 罹患率と死亡率って関係あるんじゃないの？

⇒罹患率と死亡率のデータを収集

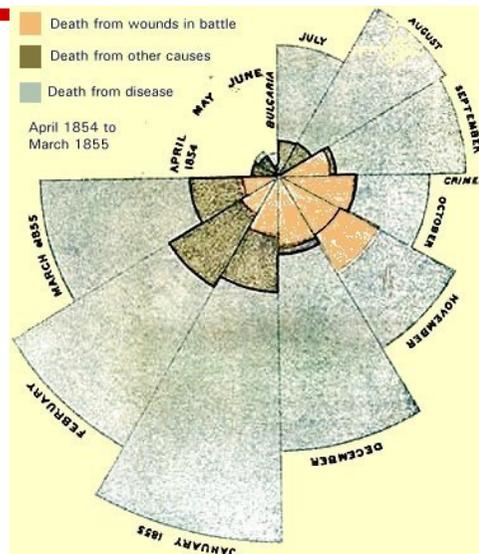
⇒病院や地域におけるケアの質が低い！

死者は大多数が傷ではなく、病院内の不衛生（蔓延する感染症）によるものだったと推測 ⇒**研究の発展**

10

クリミア戦争における負傷兵たちの死亡原因究明を統計学的に立証

- ナイチンゲールは戦死者と傷病者に関する莫大なデータを分析した。
- 原因別死亡データを集計し、死亡率を計算
- 鶏のとさかグラフを考案
- 彼等の死亡原因は戦闘で受けた傷そのものよりも病院の衛生状態の悪さによるものだと説いた。
- グラフを用いてのプレゼンテーションを行い、分かりやすく視覚的に病院施設が抱える問題を訴えた。



研究結果を元に、次の研究へと発展

研究課題

- イギリス兵士の高い死亡率を下げるための療養環境改善の取り組み

研究目的：死亡率が高くなる要因を除去

研究方法：介入研究

- 放置同然だったトイレ掃除
- 衣類の洗濯を徹底
- 下水道の汚物を何千倍分も除去
- 病院内や付近で発見された動物の死骸を埋めた。

研究成果：6ヶ月後、清潔な環境が整い、病院での兵士の死亡率が42.7%から2.2%へと低下

12

研究成果を元に、病院設備環境の改善

- 総監督として働く条件として、ナイチンゲールは「貴婦人委員会」と「紳士委員会」に病院の設備面の充実を訴えた。
 - ① 温水用の配管を各階に引くこと
 - ② 患者の食事を上階に運び上げるための「巻き上げ機」(リフト)を設置すること
 - ③ 現在のナースコールの原型である「弁付き呼鈴」を設置すること

ナイチンゲールの看護の基本

1、兵舎病院の死亡率引き下げ 42.7% → 2.2% (半年後)
病院中を掃除して、換気によりきれいな空気をいれ、暖かな食事と飲み物を用意し、と徹底した生活環境の改善を行うことで成果を挙げた。

2、兵士達を人間として甦らせた。

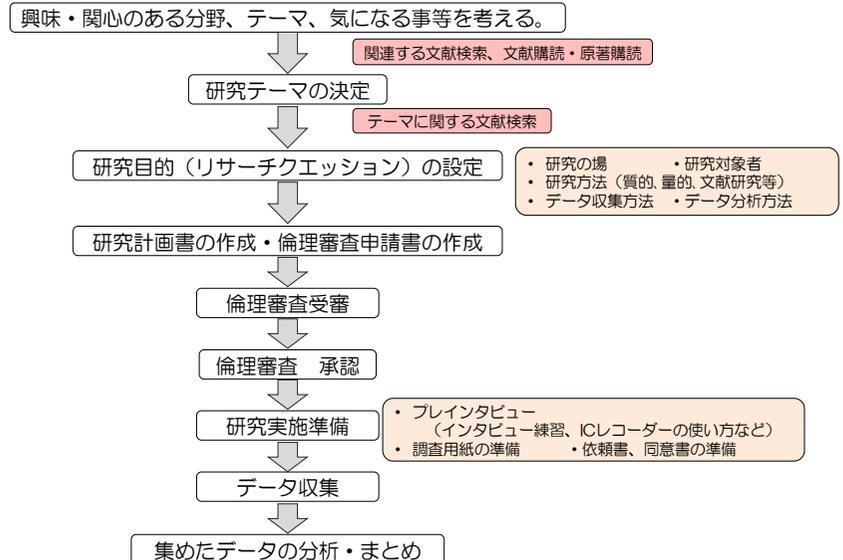
下層民で構成された兵士達を一人ひとり、人間として尊重した。死にゆく人は決して一人にしないという信念の元に看取り、健康を取り戻した兵士のために学校（教育の場を作る）を建て、図書館（酒と売春婦に走るのを防ぐために娯楽施設を作る）を作り、郵便局（送金システムの確立）まで開設した。

生活を整えるということ、その人らしさを尊重して持てる力を伸ばすこと、看護の基本です。

看護研究のすすめ方



看護研究のすすめ方



研究ノート作成（清水ゼミの場合）

- テーマ：
- 興味・関心があること → **病棟・部署での課題**
- このテーマを考えたきっかけ：
- 意義：
- 目的：
- 対象：
- 方法：
- キーワード：

具体的な研究計画書の作成①

- **研究テーマ・問題の提起**
これは仮で十分です。あとで変更可能
- **研究の動機**
ここが一番重要。箇条書きでもいいので、研究のきっかけを具体的に言語化しておくことが大事
- **研究の背景**
文献検索し、先行文献を参照にどこまでが明確化されているかなどを把握する。本来は先行文献を読み込んでから書くが、手元にある分だけでわかっていることを書いて、後から先行文献を読み込むのも1つの方法（研究開始前に）。
見本になる文献に出会えると、研究はスムーズに進む。
- **研究の目的**
この研究によって何を明らかにする予定か。何が得られるのか。どのように還元できるのか。

研究テーマの絞り込みでチェックしたい内容

- ① 研究としてすすめるには、無理があるかなと思われる項目
 - ・ 業務改善の範疇ではないか。
 - ・ 過去に同じ研究が実施され、エビデンスが明確にされていないか。
 - ・ 上司のアドバイスや講演会、研修会に参加することで解決できる問題ではないか。
- ② テーマ設定で検討したい内容
 - ・ 看護の視点で語られているか、看護の視点が入っているか。
 - ・ 研究動機から研究テーマの道筋が明確か。
 - ・ テーマは研究の方向性を示す内容になっているか。

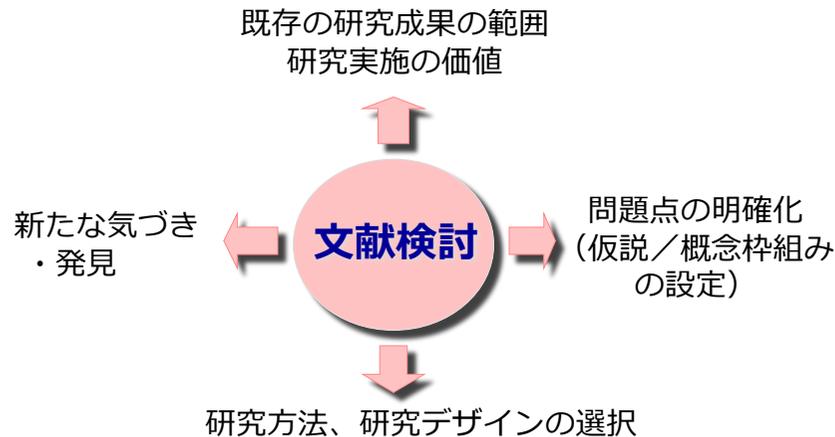
研究準備として必要な文献検索と文献検討

- 全ての研究において、文献を検索すること、文献を検討することは研究を進めるうえで重要な過程
- 文献検討をしっかりと行うことは、良い研究をすすめることになる。

進め方

- 先行研究を明らかにする。
- 自分の研究テーマに関連する論文等を検索する。
- 資料等を検討する。
その研究を行う意義を論証するために必要！

・文献検討



2021/5/28

25

具体的な研究計画書の作成②

- 研究結果の予測（仮説の設定）
- 研究の方法
 - 研究対象
誰を対象にするのか。人を対象とする場合、倫理的配慮も必要
 - 研究デザイン
研究の方法論、量的か質的か。
量的なら、ツールは何を使うのか？ すでに信頼性、妥当性が得られている既存のツールを使うと良い。
 - データの収集方法
データをどのように集めるのか。アンケート？ インタビュー？
 - データの分析方法
どのようにデータ処理を行うのか。

具体的な研究計画書の作成③

- タイムスケジュール
最初は抽象的でもいいですが、月ごと、もしくは週ごとに活動内容を書き出しておく、調整がききやすい。余裕をもって作成する。
- 予算の見積もり
研究にはそれなりのお金がかかる。研究費が必要であれば、わかる範囲で記載する（文献を取り寄せる費用、紙代、印刷代、通信費、実験費用代など）。 → 必要なら看護部に要求？
- 倫理的配慮
院内の倫理審査委員会があれば、受審する。学会発表、論文投稿でも必ず必要となる項目
- 参考文献

研究における倫理の原則

- 善行：研究は良いことでなければならない。
- 無害：研究対象者に有害なことは行わない。
- 忠誠：研究対象者と研究者との間により信頼関係をつくりあげながら進めること
- 正義：全ての研究対象者に対して偏りがなく正当であること
- 真実：研究対象者には正直に真実を述べること。
- 守秘：研究対象者の個人情報や研究中に得られたデータの機密を守ること

研究対象者の権利

1. **不利益を受けない権利**：研究参加によって被害を受けない
 2. **情報公開の権利**：研究参加によるリスクと利益の全ての情報が与えられる
 3. **自己決定の権利**：研究に参加するかどうかは自分で決める。強制されない。研究の途中で拒否できる。
 4. **プライバシー・匿名性・機密保護の権利**：プライバシーの保護、全てのデータは秘密を保障され、個々のデータから個人名が特定されない。
-

研究におけるインフォームドコンセント

1. 研究の目的、方法、結果の公表などの研究計画が、研究対象者に知らされ、同意が得られているか。
 2. 研究に参加することによるリスクと利益について、その領域の専門家により、理解できる内容と言葉で説明された上で、同意が得られているか。
-

研究におけるICの具体的な事項

1. 参加しない権利があることを知らされているか。
 2. 研究対象になるかどうかの意思決定が強要されていないか。
 3. 研究対象者やその家族への心理面への配慮がなされているか。
 4. 研究結果の公表においてプライバシーや機密性、および匿名性が守られているか。
-

倫理審査委員会の審査基準

- ◆ 研究対象者の人権が擁護されているか
 - ◆ 研究対象者の尊厳が尊重されているか
 - ◆ 個人のプライバシーが保護されているか
 - ◆ 研究に対する同意を得るプロセスが理解できるようにすすめられているか
 - ◆ 安全性に配慮されているか
-

研究計画書作成のポイント 背景①

その研究を行う意義を論証する

関連する先行研究を調べ、自分の研究を先行研究群の中に位置づけ、研究する意義があることを論証する。

1. 研究の動機

- 研究課題に気付いた経緯、なぜそれについて明らかにしたいと考えるのか述べられている。
- 臨床現場や社会一般において、その課題がどのような現状にあり、どのような問題点が生じているのか述べられている。

研究計画書作成のポイント 背景②

2. 文献検討の要約

- 明らかにしようとしている課題について、これまでどのような研究が実施され、何がすでに明らかにされているか、何がまだ明らかにされていないか、過不足なくまとめられている。
- これから取り組む研究課題は、今までに明らかにされていないものでなければならない。
- 取り組もうとする研究課題が本当に研究する価値のあるものであることを読み手・聴衆に納得してもらえるものであるか。

研究計画書作成のポイント 背景③

3. 研究の意義

- 文献検討の内容を踏まえ、今回の研究によって明らかにすることで、日々の看護実践にどのように役立つか、あるいは人間社会にどのように貢献し得るかについて記載されているか。

研究背景チェックリスト

No.	項目	チェックする内容
1	研究の動機	<input type="checkbox"/> 研究課題に気付いた経緯、なぜそれについて明らかにしたいと考えるのか述べられている。学術論文では省かれる場合が多いが、研究計画の段階ではとても大事!
2		<input type="checkbox"/> 臨床現場や社会一般において、その課題がどのような現状にあり、どのような問題点が生じているのか述べられている。
3	文献検討の要約	<input type="checkbox"/> 明らかにしようとしている課題について、これまでどのような研究が実施され、何がすでに明らかにされているか、何がまだ明らかにされていないか、過不足なくまとめられている。
4		<input type="checkbox"/> これから取り組む研究課題は、今までに明らかにされていないものである。
5		<input type="checkbox"/> 取り組もうとする研究課題が本当に研究する価値のあるものであることを読み手・聴衆に納得してもらえるものである。
6	研究の意義	<input type="checkbox"/> 文献検討の内容を踏まえ、今回の研究によって明らかにすることで、日々の看護実践にどのように役立つか、あるいは人間社会にどのように貢献し得るかについて記載されているか
7	研究の目的	<input type="checkbox"/> 研究で明らかにしたいこと、目的は明確に記述されているか

原 著

新卒看護師が職業継続意思を獲得するプロセス

Acquisition Process of the Motivation to Remain in Nursing among New Graduate Nurses

大江真人^{1),*}, 塚原節子²⁾, 長山 豊³⁾, 西村千恵⁴⁾

Masato Oe, Setsuko Tsukahara, Yutaka Nagayama, Chie Nishimura

キーワード：新人看護師, 職業継続意思, 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ

Key words: new graduate nurses, motivation for job continuation, modified grounded theory approach

参考・引用文献

- 川口 孝泰：看護研究ガイドマップ, 医学書院, 2002.
- ビヴァリー M. ヘンリー著、上田礼子監訳：看護研究ハンドブック ヘルスケアの質改善のために, 医学書院, 2004.
- John W. Creswell著、操華子・森岡高訳：研究デザイン 一質的・量的・そしてミックス法, 日本看護協会出版会, 2007.
- 南裕子編集：看護における研究, 日本看護協会出版会, 2008.
- ホロウエイ+ウィーラー著、野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門, 医学書院, 2006.
- 西條剛央：看護研究で迷わないための超入門講座, 医学書院, 2009.
- 早川和生：看護研究の進め方 論文の書き方 第2版, 医学書院, 2012.
- 松木光子：看護倫理学 看護実践における倫理的基盤, ニューヴェルヒロカワ, 2010.
- 筑波大学人間系研究倫理委員会 東京地区委員会 社会人大学院等支援室：研究倫理申請書マニュアル 平成25年度版 Ver.1.5, 2013.
- 文部科学省・厚生労働省：人を対象とする医学系研究に関する倫理指針.平成27年度改訂版

I. 緒 言

2013年度の調査（日本看護協会, 2013）では、新卒看護師の1年以内の離職率は7.5%であり、近年の離職率は減少傾向である。また、看護師全体の離職率は10.9%であることや他の職種での離職率と比較すると、新卒看護師の離職率だけが高いわけではない。しかし、看護師が不足している状況は続いており、次世代の医療を担う新卒看護師の離職を防止することは重要な課題であるといえる。

新卒看護師の離職については、94.3%が勤務中のストレスを抱えていること（神部他, 1996）。就職後3カ月時に離職願望を抱いている新卒看護師が7割であること（水田他, 2004）が述べられており、多くの新卒看護師が職業上のストレスを抱え、離職を考えている現状が明らかになっている。その原因として新卒看護師は、看護技術や知識の不安、職場での人間関係、患者との関係、配属先などに課題やストレスを感じていることが報告されている（古市他, 2006；服部他, 2010；篁他, 2009；Tei-Tominaga et al., 2009）。さらに、新卒看護師の離職の引き金になるとされているバーンアウトやリアリティショックには、仕事の責任の重さ、複数の患者への対応、理想像との相違なども影響していることが明らかとなっている（鈴木, 2007；平塚他, 2009；水田, 2004）。そして、そのリアリティショックからの回復には、新卒看護師に特有の不安定さを抱えながら、看護技術や勤務への適応などの解決課題を解決していくことが必要であるといわれている（渡邊他, 2010）。

一方、新卒看護師の職業継続の要因については、給与や勤務体制などの組織要因、先輩の相談相手の有無等が関連しているとされている（吾妻他, 2007）。しかし、それらの要因がどのように影響し合いながら職業継続意思を獲得しているかは明らかとなっていない。

そこで、新卒看護師の職場適応をスムーズに進めるためには、新卒看護師が職業継続意思を獲得するまでにどのような思いを持つか、またそれらの思い

がどのように影響し合っているかを明らかにする必要があると考えた。

II. 目的および意義

本研究は、新卒看護師が職業継続意思を獲得するプロセスを明らかにすることを目的とした。本研究の意義は、そのプロセスを明らかにすることにより、新卒看護師の職場適応への示唆を得ることである。

III. 研究方法

1. 研究デザイン

本研究は、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（木下, 2003）（以下、M-GTA）を用いた質的帰納的研究である。M-GTAはデータに密着した分析を行い、領域密着型の理論を生成することを目的とし、理論的パースペクティブとして象徴的相互作用論（Blumer, 1969）を基盤に置いた研究方法である。

本研究では、新卒看護師が職業継続意思を獲得するプロセスという限定された範囲での理論生成を指向していること、看護師と患者、同僚・先輩看護師との間で社会的相互作用が生じている現象であること、職業継続意思を獲得するプロセスの変化を提示することで実践への示唆を得ることが期待できることから、M-GTAが適していると判断した。

2. 研究協力者

研究協力者は、A大学を卒業し、A大学附属病院に勤務する新卒看護師とした。研究協力者が勤務する大学病院では、研修システムが整備されており、就業前研修が実施されるなど職場適応の促進、離職の予防に向けた対策がとられていた。研究協力者の選定は、看護部長の許可を得た上で、複数の病棟病院長に離職願望を持っていないと考えられる新卒看護師の紹介を依頼して行った。面接時期は、入職後6～10カ月が経過した頃とした。その時期は、研究協力者が他のスタッフと同様に業務を分担され、夜勤を

明確な研究目的
意義：新人看護師
の職場適応への示
唆

研究テーマの
現状と課題

先行研究と、既に
明らかになっている
こと。

これから取り組む
課題はまだ明らか
にされていない。

明らかにする（研
究する）価値があ
る。